

いけはたつば
きやまいせき

池端椿 山遺跡

所在地
伊勢原
市
池端

時代
縄文
時代、
中期
後半
～
後期
中葉



池端椿山遺跡は大山から東側に伸びる標高 30 メートルほどの台地上に位置します。小田急線伊勢原駅の北側を通る県道が東側に向けて緩やかに傾斜をはじめる池端の交差点付近にあたるあたりです。

今回の調査は県道に沿った歩道部分幅 2 m、長さ 50mほどの限られた範囲ですが、縄文時代中期の竪穴住居址(たてあなじゅうきよし) 6 軒、後期の竪穴住居址 3 軒、後期の敷石住居址(しきいしじゅうきよし) 1 軒、屋外埋甕(おくがいうめがめ) 2 基、土坑(どこう) 3 基、早～前期の陥穴(おとしあな) 1 基、中～後期の焼土址(しよ



▲ 1号住居址

うどし) 1基からなる多数の遺構が検出されました。

以下、代表的な遺構について説明します。

1号住居址は中期曾利(そり)式期のものです。竪穴の掘り込みは深く、遺存状況は良好でした。壁際に巡らされた溝や柱を立てた穴の状況から、最低3回の建て替えないし重複が考えられます。2号住居址は中期勝坂(かつさか)式期のものです。1号住居址より少し古い時代のもので、柱を立てた穴は検出されたましたが、1号住居址とは異なり、壁際に巡らした溝は認められません。2号住居址では土器を埋め込んだ炉(埋甕炉(うめがめろ))が検出されています。3～6号住居址は、1号住居址と同じく中期曾利式期に属しますが、遺存状況は良好なものとは言い難いものでした。このうち、4号住居址は埋没した第2号住居址の上面に構築されていました。7～9号住居址および1号敷石住居址は後期のものです。9号住居址は柄鏡形住居(えかがみがたじゅうきよ)で、炉や出入り口を含めたほぼ全体を検出できました。9号住居址の炉は、土器を埋め込んでさらに石で囲った石囲い埋甕炉でした。また、炉から住居壁際に沿って川原石が巡らされていました。1号敷石住居址は、床に敷かれた敷石の一部のみが検出されました。全体的なプランは不明です。



▲ 9号住居址